

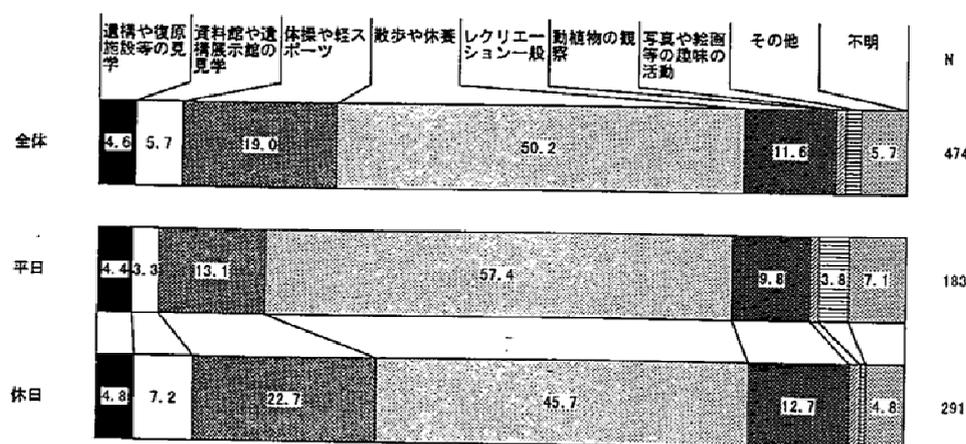
②宮跡の来訪目的

「散歩や休養」が50.2%と半数を占め、これに「体操や軽スポーツ」の19.0%と「レクリエーション一般」の11.6%を加えると3者で8割を越え、通常の都市公園とほぼ同質の利用傾向となっている。

曜日別では、休日の軽スポーツ利用が22.7%と高く、また「資料館や遺構展示館の見学」も7.2%と若干高くなっているのが特徴である。

年齢別にみると、10歳代は「体操や軽スポーツ」が47.4%と半数近いが、50歳代では「遺構や復元施設の見学」「資料館や遺構展示館の見学」という歴史型の利用が合わせて28.6%あり、また70歳代以上は「散歩や休養」が68.0%を占めるなど、年齢階層毎の差異が現れている。

さらに居住地別にみると、奈良市内や県内の居住者は「散歩や休養」と「体操や軽スポーツ」での利用がほとんどなのに対し、京都府や大阪府からの利用者は「遺構や復元施設の見学」「資料館や遺構展示館の見学」を目的とした人が1/4程度いた。



図Ⅱ-10 来訪目的

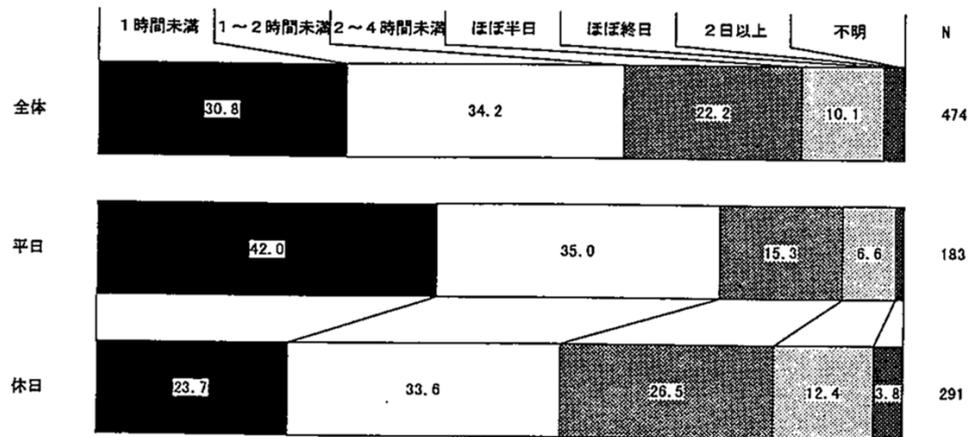
③宮跡での滞在時間

「1～2時間未満」が34.2%、「1時間未満」がこれに次いで30.8%と、2時間未満の滞在者が合わせて65.0%と、宮跡内の滞在時間は比較的短い傾向がみられた。

曜日別では、平日には2時間未満が77.0%を占めるのに対し、休日は「2～4時間未満」が26.5%あり、「ほぼ半日」も12.4%、「ほぼ終日」も3.8%みられ、滞在時間が平日に比べかなり長時間化している。

なお、利用時間帯と利用者数を掛け合わせた加重平均では、平日は約1時間33分で、休日は2時間13分となる。

年齢別にみると、若年層ほど滞在時間が長く、高齢者ほど短くなる傾向にあるが、これは10歳代の利用目的が「体操や軽スポーツ」が5割を占めたように、サッカーや野球等の場として利用することが多いため、滞在時間が長期化しているものと思われる。



図Ⅱ-11 滞在時間

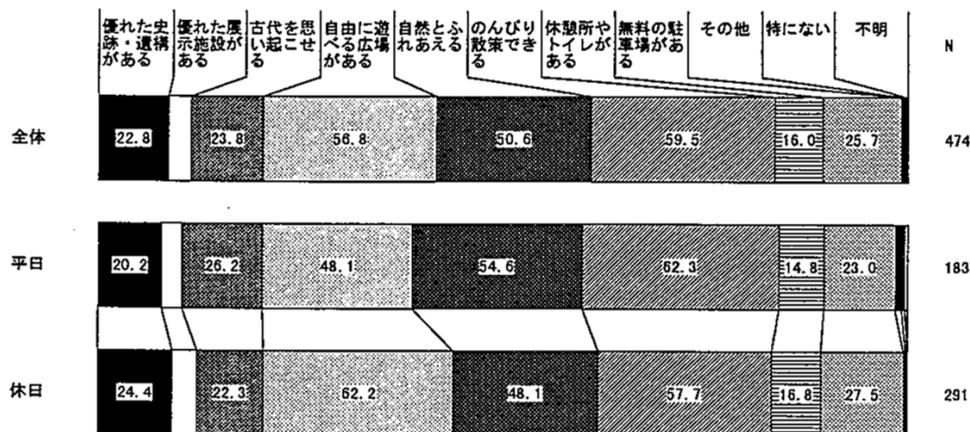
④宮跡のよかった点

3項目までの複数回答でたずねたところ、「のんびりと散策できる」59.5%、「自由に遊べる広場がある」56.8%、「自然とふれあえる」50.6%の3つが5割を越えて抜きん出ている。また「古代を思い起こせる」23.8%、「優れた史跡・遺構がある」22.8%など、歴史資源の保全の側面についてもそれぞれ1/4の人が評価している。

平日、休日の差異は大きくはないが、平日の1位が「のんびり散策できる」に対し、休日の1位は「自由に遊べる広場がある」となる。

年齢別では、「自由に遊べる広場がある」と「自然とふれあえる」は10~30歳代で多く、「のんびり散策できる」が40歳代以上で多くなっている。また同時に、40歳代以上では「優れた史跡・遺構がある」や「優れた展示施設がある」「古代を思い起こせる」などの歴史性を評価する意見も多くなっている。

居住地別では、大阪府や京都府の広域利用者が歴史性を評価しており、地元の利用者は広場性やくつろぎ性を評価している。



図Ⅱ-12 宮跡の良かった点

⑤宮跡の不満な点

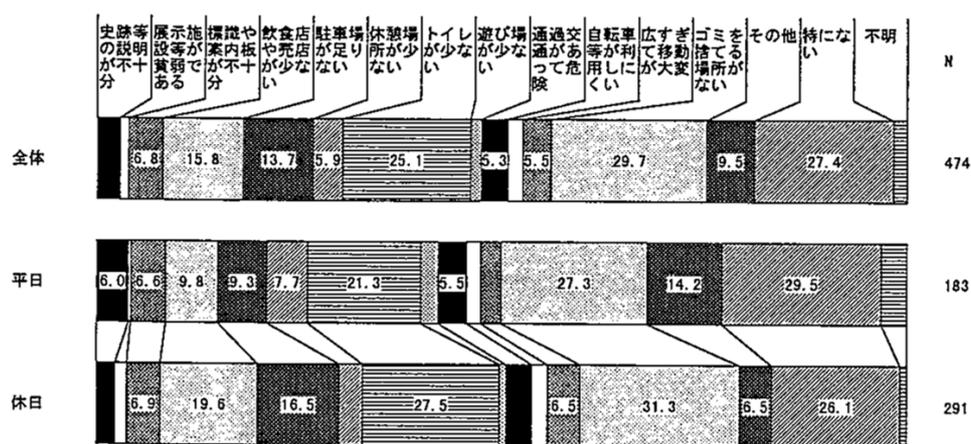
これも3つまでの複数回答でたずねたところ、「ゴミを捨てる場所がない」の29.7%、「トイレが少ない」の25.1%、「飲食店や売店が少ない」の15.8%、「駐車場が足りない」の13.7%などが上位を占めており、これらは全て、便益施設の整備に関する不満であった。また宮跡内の交通に関しては、駐車場の不足のほか、「広すぎて移動が大変」5.5%、「通過交通があつて危険」5.3%なども指摘されている。

こうしたなか、「特にない」という声も27.4%あり、3割の利用者は現在の宮跡整備に不満を示していなかった。

曜日毎では、広域からの利用が増加していると思われる休日に「ゴミの捨て場」「トイレ」「飲食店・売店」「駐車場」の不足という上位4項目が、いずれも平日を大きく上回っている。

「その他」が平日で14.2%と多いが、これはゴミの捨て場がないことと関連して、「食べ残しや花火の残骸、犬のフン等が散乱して汚い」という、利用者のマナーに関する意見が多くを占めていた。

また、居住地別でみた特徴として、「駐車場が足りない」という不満が、京都府や大阪府の住民よりも、奈良県内の地元住民のほうが高くなっている。

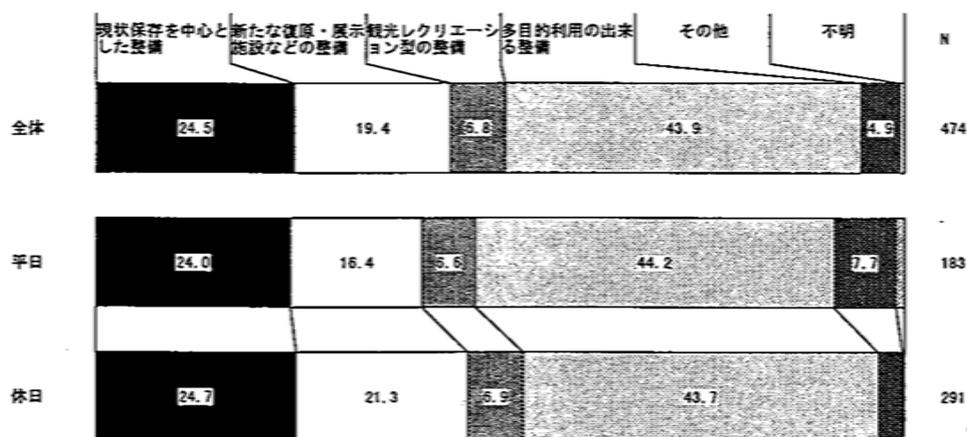


図Ⅱ-13 宮跡の不満な点

⑥希望する整備タイプ

今後の宮跡の整備タイプとしては、現在の多彩な利用形態を反映して「自然や広がりを活かした多目的利用のできる整備」が43.9%と半数近くを占めており、「優れた史跡や文化遺産の現状保存を中心とした整備」の24.5%、「歴史性を活かした新たな復元・展示施設などの整備」の19.4%がこれに次いでいる。これに対し「ある程度娯楽性を持たせた観光レクリエーション型の整備」は6.8%しかなかった。また「その他」が4.9%あったが、この内容は「現状のままがよい」という意見が多くを占めていた。

曜日別では、周辺住民利用が中心の平日で現状型の自然活用型の整備が望まれているのに対し、広域利用が増える休日は歴史施設の保全や復元など、宮跡の歴史性を前面に出した整備が望まれている。



図Ⅱ-14 希望する整備タイプ

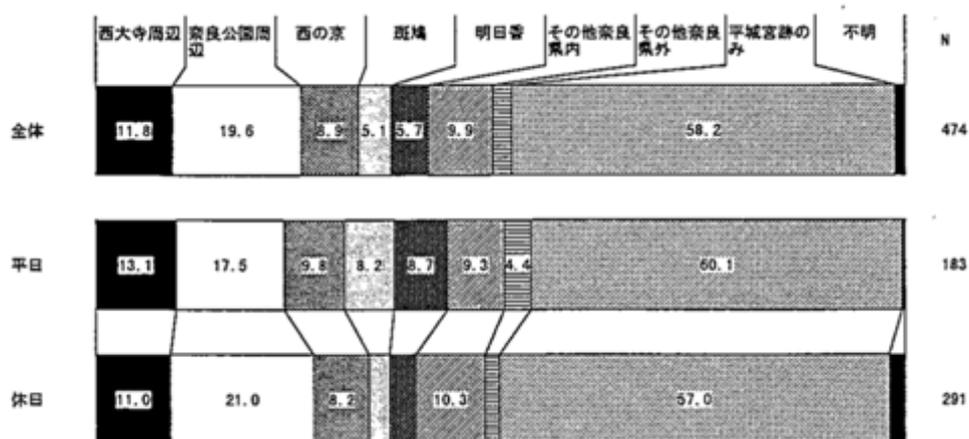
⑦周辺施設の回遊状況

「平城宮跡のみ」の利用という人が58.2%と6割近くを占めていた。これと不明の1.7%を除いた40.1%の人が周遊行動をとっていることになるが、「奈良公園周辺」の19.6%、「西大寺周辺」の11.8%、「西の京」の8.9%など、奈良市内での周遊が大半を占めている。なお、この設問は複数回答であるため、回答数の合計は40.1%を越えている。

この周遊状況は平日、休日とも大きな差はないが、平日のほうが「明日香」「斑鳩」や「その他奈良県内」などを回る広域周遊の傾向が若干強くなっているが、これは平日のほうが修学旅行や団体利用者の割合が高いことによるものと思われる。

年齢別では、とくに10歳代で「奈良公園周辺」や「西大寺周辺」との回遊性が高くなっているが、これは遠足や修学旅行生の占める割合が高いためと思われる。

居住地別では、地元周辺では宮跡のみの利用が多いが、広域利用者は「西大寺周辺」や「奈良公園周辺」と一体で利用する例が増えている。



図Ⅱ-15 周辺施設の回遊状況

⑧利用交通手段

「自動車」が48.1%と半数近くを占め、「徒歩」が23.2%で以下「電車」12.9%、「自転車」10.1%の順となっている。

曜日別では平日は「徒歩」と「自転車」で43.2%を占めるのに対し、休日はこれが27.2%となり、代わって「自動車」が10ポイント、「電車」が4ポイント平日よりも高くなっている。

年齢別では遠足等の団体で訪れる10歳代は別として、若年層ほど自動車の比率が、高齢者層ほど徒歩の比率が高くなっている。

⑨自由意見欄での要望事項等

アンケートの最後に、自由意見として宮跡に対する意見・要望・評価等をたずねたところ、474人の回答者の31.0%に当たる147人から、216項目に及ぶ要望等があがった。

このうち最も多かったのが、「平城宮跡の今後の整備方向」に関する意見で72件あった。この中でも多いのが具体的には「これ以上の施設整備は行わず、現状を大事にして欲しい」という意見に代表されるものが15件を占め、これに次ぐのが「宮跡内の自然を生かした整備を行って欲しい」という意見の13件で、以下「樹木、木陰や花のある整備」「整備事業の早急な推進」などという意見があった。

整備方向に次ぐのが「現在の管理内容について」の53件であり、具体的には「ゴミ処理や犬のフンの処理、トイレ等の清掃に対する要望」「芝生や草の管理に対する要望」が多く、また「夜間の防犯管理」や「宮跡内のバイクの走行」など、安全管理に関する要望もあった。

さらに具体的な施設名をあげた「宮跡内に欲しい施設」としてくられる意見も43件と多く、具体の施設として「売店・飲食店」「トイレ」「グラウンド」等の整備要望があがっている。また「表示板や案内板の充実」を望む声も多かった。

そして要望とは言えないが、「現在の宮跡はすばらしいところである」という利用の評価も40件あった。